

9 モデル地区の実践

(1) 1中3小隣接型・分離型 海老名市

有馬中学校

有馬小学校・社家小学校・門沢橋小学校

ア 教育目標

(ア) 有馬中学校区小中一貫教育の目標

「豊かな心」と「学力の向上」をめざして

～人のつながりを創る 学びのつながりを創る～

① 人のつながりを創る

児童生徒の様々な交流事業を計画し、その中で「生徒の自己肯定感の向上」「児童の不安の軽減」を図り、小中学校の「滑らかな接続」を目指します。

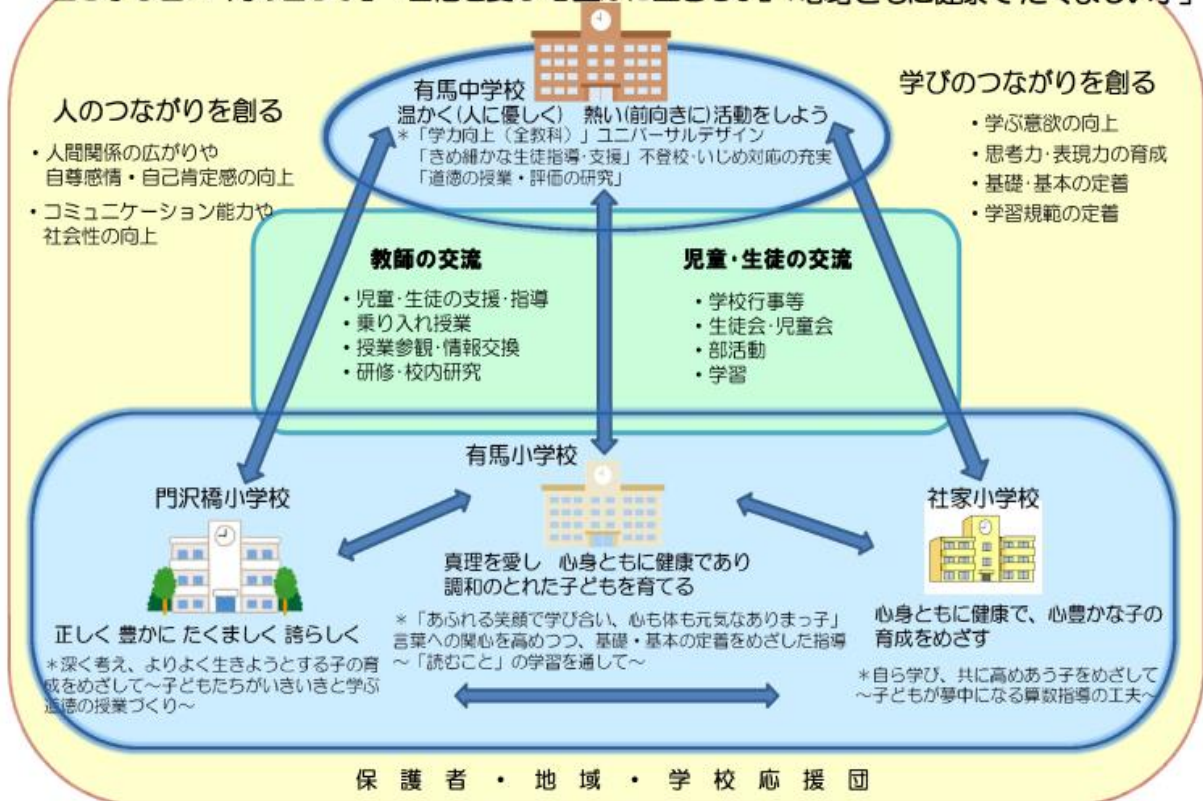
② 学びのつながりを創る

中学校教員による「派遣授業」や各校の校内研究に互いに参加し、研究授業に参加することによって、学習内容や学習形態など「学びづくり（授業改善）」に対する意識化を図り、9年間の教育課程作成へつなげます。

有馬中学校区小中一貫教育構想図

「豊かな心」と「学力向上」をめざして

「自ら学び合い 高め合う子」「自他を愛し心豊かに生きる子」「心身ともに健康でたくましい子」



(イ) 教育目標の背景（現状分析）

中学校区4校の児童生徒の実態調査
（山口県教育委員会作成の「EASY」を活用）

課題点を探りだし、小中一貫教育の
目標と取り組みの方向を探る。

児童生徒は中学入学前後において様々な不安を抱えて
おり、「不登校」「不適応」「学力」等において、
全国の傾向と同じような課題を抱えている。

2つの特徴 がみられる。

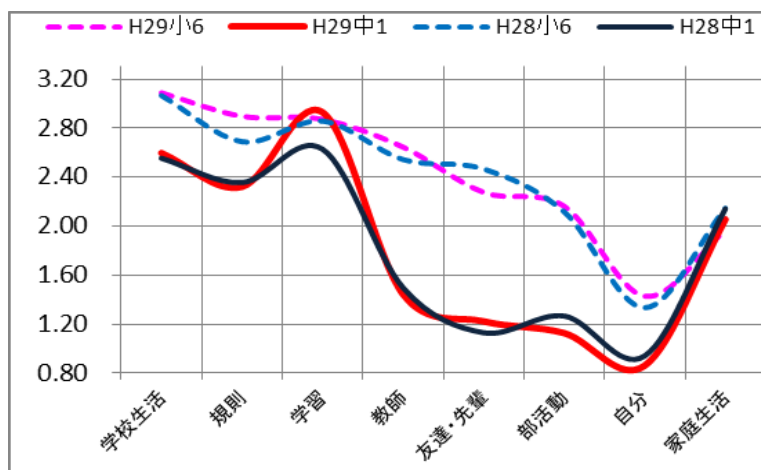
「人間関係」の不安をもつ児童生徒が多い。
入学後も友人関係での不適応を起こす傾向

「学力」に対する不安感が大きく、中学入学後も
さらに増加していく傾向が見られる。

【不安】に関する傾向

「学校生活」の不安感の
解消に向けて

「学習」の不安感の
解消に向けて



（平成29年度児童生徒アンケートより）

『人のつながりを創る』

小・中、小・小間で児童生徒の様々な交流事業を
計画し、その中で「生徒の自己肯定感の向上」「児
童の不安感の軽減」を図り、「滑らかな接続」を
目指します。

『学びのつながりを創る』

中学校教員による「派遣授業」や、各校の校内研
究会に互いに参加し研究授業を見ることによっ
て、学習内容や学習形態など「まなびづくり」（授
業改善）に対する意識化を図り、9年間の教育課
程作成へつなげます。

《 実 施 事 業 》

- ・小中合同朝のあいさつ運動
- ・小学生の中学校合唱祭りハーサル見学交流
- ・中学校体験入学（授業体験・部活動見学）
- ・部活動の訪問交流
- ・小小間で総合学習発表会
- ・中学生の小学校への職場体験交流

- ・中学教員の小学校への派遣授業（通年）
- ・小中一貫合同講演会、研修会
- ・職員スポーツ交流親睦会
- ・授業参観 ・各校内研究会への相互参加
- ・小学校の展示会への、中学生の作品交流展示
- ・家庭学習の小中共通化検討

イ 推進組織

(ア) 中学校区組織

有馬中学校区小中一貫教育実施委員会

【構成】各校校長、教頭代表、担当者代表、
市教委担当者、県教委担当者

【内容】実施計画の作成
状況の把握と計画修正
成果と課題の検証

有馬中学校区小中一貫教育担当者会議

【構成】各校担当者、市教委担当者

【内容】実施計画に基づいた細案作成、調整
アンケート調査等の実施と分析・まとめ、各活動の検証

(イ) 教育委員会組織

えびなっ子しあわせプラン推進委員会（年3回）

【構成】市内小中学校の校長6名・教頭3名・保護者代表・市教委・スーパーバイザー

【内容】海老名市小中一貫教育全面実施の充実・発展についての協議等

小中一貫教育推進委員会

【構成】教育長、教育部次長、教育支援課長、指導主事

【内容】市全体の取組についての検討・協議等

海老名市小中一貫教育担当者会議

【構成】市内小中学校の担当者、教育委員会担当者

【内容】各中学校区の実施計画の作成、協議
次年度に向けた取組の方法性の確認等

ウ 主な取組

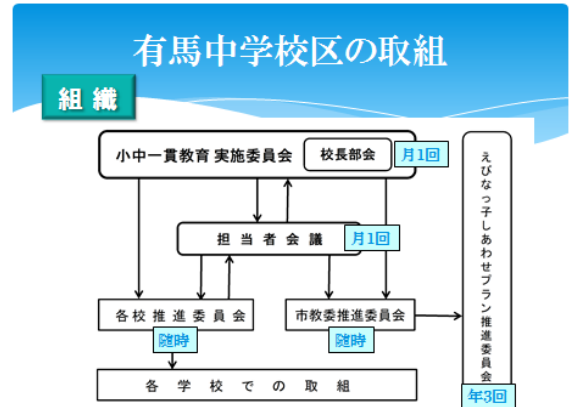
(ア) カリキュラム作成

〔算数・数学のカリキュラムの作成〕

「算数・数学部会」を設置し、中学校長、教頭、数学科教員、小学校の教員で「算数・数学科の9年間の教育課程作成」について会議を行っています。

〔海老名市防災教育プログラムの作成〕

平成26年度に「自分の命を守る学習計画作成委員会」を設置し、小中学校の学校長、教頭、小中学校の教員で9年間の学びをつなげる「海老名市防災教育プログラム」について会議を行い、小学校1～3年生、4～6年生、中学校各々の学習計画、児童生徒用テキスト、指導案等を作成しました。平成29年度より、全小中学校で授業を実施しています。また、有馬中学校区では



小中学校合同で引き取り訓練を実施しています。小中学校に兄弟姉妹がいる保護者は、小学生の移動等の負担を配慮し、原則中学生から引き渡しを受け、その後各小学校へ向かいます。



(イ) 合同研修

小中一貫教育について理解を深め、必要性について職員の意識の統一を図るとともに、研究への意欲を高めることを目的とし、有馬中学区の全ての教職員を対象とした「小中一貫教育教職員合同研修会」を実施しています。また、教科や校務分掌の分科会を行い、小中の情報交換や9年間のカリキュラム検討を進めています。



(ウ) 授業研修

各校の校内研究に互いに参加することによって、学習内容や学習形態など「学びづくり（授業改善）」に対する意識化を図ります。

(エ) 乗り入れ授業（中学校教員による派遣授業）

有馬中学校区では、中学校へ向けての円滑な授業展開を目的とし、2年間にわたり次のように年間を通して中学校教員による各小学校への派遣授業を行ってきました。

小学校	平成27年度	平成28年度	平成29年度
有馬小学校 【施設隣接型】	・ 図画工作（毎週） ・ 算数・英語（月数回） ・ 体育（年1回）	・ 図画工作（毎週） ・ 算数・理科（月数回） ・ 体育（年1回）	・ 算数（週1回程度） ・ 理科（週1回程度） ・ 体育（年1回）
門沢橋小学校 【施設分離型】	・ 図画工作（毎週） ・ 算数（月数回）	・ 図画工作（毎週） ・ 算数（月数回）	・ 算数（週1回程度） ・ 体育（年1回）
社家小学校 【施設分離型】	・ 図画工作（毎週） ・ 算数（月数回）	・ 図画工作（毎週） ・ 算数（月数回）	・ 算数（週1回程度）

* 各教科の派遣日程や時間割は、各学校の担当者同士で調整しています。

(オ) 児童・生徒の交流（小小の交流も含める）

〔児童会・生徒会の交流〕

各学校の担当者を中心に日程を調整し、小中合同の挨拶運動を実施しています。



〔小中の行事交流〕

- ・各小学校の6年生が、中学校で合唱祭りハーサルを見学します。
- ・生徒会が中心となり、中学校体験入学時の質問会や中学校紹介を行います。



〔中学校への体験授業・部活動見学〕

小学生の不安等を少しでも取り除き、前向きに進学に備える気持ちをつくることを目的とし、希望した授業体験と、部活動見学を行います。

〔中学校部活動の小学校訪問〕

合唱部や演劇部による公演、陸上部の走り方の指導、吹奏楽部による演奏交流、アートクラフト部による芸術交流などを行います。



〔小学校間の総合的な学習の時間発表交流〕

門沢橋小学校と社家小学校で、総合的な学習の時間の一環として、各地区の様子を発表してもらい、それぞれの地区の特徴についての理解を深めています。



〔中学生の小学校への職場体験実習〕

中学2年生が、各小学校で2日間職場体験学習を行います。主に1年生のクラスを担当し、実際に児童と触れ合いながら「働く」ことへの理解を深めます。

(カ) 家庭・地域との連携（保護者・地域講演）

小中一貫教育の実施・研究を始めるにあたり、主旨や具体的な取組内容等を保護者・地域に周知し、「ともに作り上げる小中一貫教育」をめざすことを目的として実施しています。



エ 小学校教員が中学校にできること、中学校教員が小学校にできること

〔小・中学校の互いの教育課程を理解した上での授業づくり〕

小・中学校の学習内容の系統性を理解しあい、効率的な学びの連続性への指導内容、指導形態、授業改善を検討・協議をしていくこと。

目的

《有馬中学校区小中一貫教育の目的》

義務教育9年間を最大限有効に使った教育活動を展開する

学びのつながりを創る

人のつながりを創る

《乗り入れ授業の目的》

○9年間の教育課程、特に小学6年生と中学1年生の教育課程を研究し、学力向上を図る

○小中学校の授業方法についてお互いに研究し、系統性を図る

○小学生に中学校での学習や生活に見通しを持たせ、意欲の向上を図る

○児童生徒理解、支援の充実を図る

※乗り入れ授業担当教諭をキーパーソンとして、教科全体・学校全体に広めていく

概要

【概要】

形態：中学校数学教諭による算数の授業

対象：小学6年生全クラス

時数：25時間（年度末の「算数の総まとめ」「算数卒業旅行」の時数を充てる）

【内容】

算数から数学への接続部分の学習（中学1年生でつまずきやすい領域を中心に）
《有馬中学校生徒の実態》

- ・「負の数」に強い不安を感じる生徒がいる
- ・文字式の導入段階でつまずき始める生徒がいる
- ・関数の学習に苦労している生徒が多い

連携・調整

① 週時間割の中に乗り入れ授業を組み込む（例、木曜日1～4H 社家小学校6年）

② 月ごとの調整（学校行事等）をコーディネーターが行う

③ 数日前に乗り入れ授業担当教諭と6年担任が打合せを行う

加配措置

県費コーディネーター 1名

市費非常勤講師 2名（乗り入れ授業後補充として）

*算数以外に図画工作で乗り入れ授業を実施しているため2名加配

学期	月	時数	単元	学習内容	学習方法
1学期	4月	1	かけ算・わり算	○乗り入れ授業について	○学習の目的や内容の説明 *授業参観、児童理解 *具体的な学習形態・内容の検討
	5月	2	第1章 数の広がりⅠ	①0より小さい数 ②負の数 ③身近な負の数 ④負の数の計算	○6年教科書巻末P209, 210 「0より小さい数」 ○プリント「0より小さい数」 ○プリント「正負の数の計算」 *計算についてはイメージ程度とする
		1		TT授業	(小学校授業補助)
	6月	2	第2章 数の広がりⅡ	①分数の意味 ②小数と分数の違い ③他の数との違い ④分数の計算	○既習事項の確認 ○プリント「分数の2つの意味」 ○プリント「分数と小数の違い」 *計算は時間に余裕があれば扱う
		1		TT授業	(小学校授業補助)
	7月	2	第3章 数の広がりⅢ	①未知の数 ②分数で表せない数 ③平方根 ④平方根の計算	○6年教科書巻末P211「分数で表せない数」 ○プリント「分数で表せない数」 *平方・平方根の概念のみ扱う *計算についてはイメージ程度とする
		1		TT授業	(小学校授業補助)
2学期	9月	0	第4章 関数に慣れる	①関数の意味 ②いろいろな関係 ③負の数と表・式・グラフ ④比例・反比例	○6年教科書P122～「比例と反比例」 ○プリント「不思議な箱」 ○プリント「点(座標)について」 *6年の学習内容について、1学期の学習を生かして負の世界まで拡張する *比例・反比例以外の関数についても簡単に触れる *座標等、中学で必要となる基礎事項を丁寧に扱う
	10月	2			
	11月	2			
	12月	2			
		1	TT授業	(小学校授業補助)	
3学期	1月	2	第5章 文字を使おう	①文字について ②文字の利便さ ③文字式の利用	○6年教科書P36「□にあてはまる数」 ○既習事項の確認 ○プリント「□にあてはまる数は？」 *文字を使うことの良さを丁寧に扱う *中学での文字式の表し方のきまりに簡単に触れる
	2月	1			
		1	TT授業	(小学校授業補助)	
	3月	2	第6章 中学にむけて	①1年間のまとめ ②中学入学にむけて	○乗り入れ授業1年間のまとめ ○中学入学までに復習しておく内容の確認
		1			

PDCAサイクルの確立にむけて

- 今後も算数の乗り入れ授業を継続する
- 「算数・数学部会」を年数回開催し、効果的な授業方法や年間計画を協議する
- 「小学6年と中学1年の接続」の視点をさらに広げ、9年間の教育課程編成につなげる

海老名市防災教育プログラム

平成29年3月

	プログラム①	プログラム②	プログラム③	プログラム④	プログラム⑤
小学校 第1学年	<p>■学校にいるとき地震が起きたらどうする？その1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大地震が起きたときの危険について知る。 ・教室で地震が起きたとき、基本的な避難行動ができるようにする。 	<p>■学校にいるとき地震が起きたらどうする？その2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室以外の場所で地震が起きたときの危険からの身の守り方と、安全な避難の仕方を考えることができる。 	<p>■こんなところで、地震が起きたらどうする？その1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大地震が起きたときの危険について知る。 ・登下校時に地震が起きたとき、基本的な避難行動ができるようにする。 	中学校区 小中合同 引き取り 訓練	緊急地震 速報を 活用した 避難訓練
小学校 第2学年	<p>■学校や登下校中に地震が起きたらどうする？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の学習を振り返り、地震が起きたとき、何が危険なのかを考えさせる。 ・学校や登下校中に地震が起きたとき、状況に応じた避難ができるようにする。 	<p>■こんなところで、地震が起きたらどうする？その2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家や外にいるとき地震が起こった時、状況に応じた避難ができるようにする。 ・地震が起こった時や避難をする時に、安全に行動するため特に自分として気をつけることを考えさせる。 			
小学校 第3学年	<p>■地震に備えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いざという時の備えとして、自分の家ではどんな準備や心がけが必要か考える。 	<p>■防災センターを見学しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災センターの見学をしよう。(事前・事後) 			
小学校 第4学年	<p>■地震から身を守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が身近であることを知る。 ・いつ、どのような場面においても命を守る手段を身につける。 	<p>■急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急な大雨・雷・竜巻が起こった時の身の安全の確保について考える。 			
小学校 第5学年	<p>■地震がおさまっても注意しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の揺れがおさまった後に起こる危険なことや、注意すべきことを知り、身近にいる大人の指示に従って、また自分で判断して身の安全を確保できるようにする。 ・地震がおさまった後の、人々の助け合いについて知る。 	<p>■自然災害にそなえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震などの自然災害に対する日ごろの備えについて理解するとともに、海老名市の防災対策を知る。 			
小学校 第6学年	<p>■助け合おう 災害の後の生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の様子について知り、災害時に協力して被害や生活を乗り切る大切さに気付くとともに、自分たちにできることを考える。 	<p>■人の命を助けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命の大切さを知り、安全で安心な生活を送るために自分たちにできることを考える。 			
中学校 第1学年	<p>■防災マップを作ろう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の災害危険箇所、役立つ場所を知り、防災に対する意識を高め、いざという時に自分のいのちを守り、被害を最小限におさえる。 	<p>■防災マップを作ろう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の災害危険箇所、役立つ場所を知り、防災に対する意識を高め、いざという時に自分のいのちを守り、被害を最小限におさえる。 			
中学校 第2学年	<p>■「覚えておこう(応急手当)」①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における災害・ケガについて考えるとともに、災害時に受診・救急要請ができない状況についても知り、応急手当の重要性を知る。 ・応急手当をなぜ行うかを理解し、傷病者の状況を見て適切に速やかに応急手当ができるようにする。 	<p>■胸部圧迫・AEDの使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法に加えて自動体外式除細動器(AED)の実習を通し、救急救命活動に対する意識を高め行動できるようにする。 			
中学校 第3学年	<p>■災害時に取り組めること貢献できること(隣・近所との連携)</p>	<p>■災害時に取り組めること貢献できること(避難所等でのボランティア)</p>	<p>■学区のハザードマップから考えよう。(どう対応するか) ※AED講習でも可</p>		

【具体的な指導例】

① こんなところで地震が起きたらどうする（小学校2年生）

3. こんなところで地震がおきたらどうする？ その2

② 家うちにいるときは？

家うちにいるときに地震がおきたらどんなきけんがありますか。

たながたおれる

ものがおちてくる

しょっきなどのなかがとびでる

ほかにもあるかな？

家うちにいるときに地震がおきたら、どうしたらよいでしょう。

□ しょうぶなつくえしんの下などにかくれ、頭あたまをまもりましょう。

□ あわてて外とちに飛び出さないようにしましょう。

□ 近くの大人おとなの人といっしょに行動しましょう。

■海老名市防災教育共通教材 対象：小学校2年生

こんなところで地震が起きたらどうする？ その2

■指導する学年	2年	■指導場面	学級活動	■指導時数	1時間
■本時のねらい	家や外 <small>とち</small> にいるときに地震が起こった時、状況に応じた避難ができるようにする。				
■使用する資料	海老名市防災学習テキスト「地震しんからいのちを守る」P.9・P.10				

学 習 活 動	指導上の留意点
【導入】 1. 家 <small>うち</small> にいるときに地震が起こったら、どんな危険があるかどのように行動したらよいか話し合う。(テキストP.9) (危険) ・落ちてる : 電灯、ガラスなど ・倒れてくる : 本棚、テレビ、ドア など ・動いてくる : 机、いす、ワゴン など (行動) ・じょうぶな机の下などにかくれ頭を守る。 ・あわてて外 <small>とち</small> に飛び出さない。 ・家の人といっしょに行動する。 ・家の人がいないときは、近くにいる大人といっしょに行動する。	○いつ、どこで起こるかわからないことをおさえる。 ○このような危険から身を守るために、机の下にもぐったり、頭を隠したりすることをおさえる。
【展開】 2. 外 <small>とち</small> にいるとき、それぞれの場で自分の身を自分で守るためにはどのように行動したらよいか考える。(テキストP.10) ・道を歩いていたら、自転車であついたりしたら？ ・公園やあき地にいたら？ ・バスや電車のついでにいたら？ ・スロープや歩道橋にいたら？ ・橋や歩道橋の上 <small>うへ</small> にいたら？ ・川や海 <small>うみ</small> にいたら？ 3. 安全に避難するためにどうしたらよいか具体的に確認する。 ・危険から離れる。 ・頭 <small>あたま</small> を守り おちつて行動。 ・ものが「落ちてこない」場所へ避難 ・ものが「動いてこない」場所へ避難 ・ものが「動いてこない」場所へ避難	○テキストは最初は見せず、身を守る方法を考えさせた後で確認のために見せる。 ○それぞれの場所ごとにどう危険なのか、考えさせる。 ○場所や状況に応じて、安全な避難の仕方が変わることを考えさせる。 ○児童の発言から大切な言葉を板書する。 ○危険を回避するための方法を確かめる。 ○自分で正しく判断することが大切であることを知らせる。
【まとめ】 4. 学習してわかったことや、特に自分として気をつけることを振り返る。	○普段から家の人と地震が起こったらどうするかを話しておくように伝える。

【小学校1～3年生】

災害が起こったとき、自分のいのちを守るために、状況に応じた行動ができるようにする。

② 人のいのちを助けよう（小学校6年生）

5 人のいのちを助けよう

災害時だけでなく、普段の生活の中でも、自分や周りの人がけがをしてしまう場面があります。時には、人のいのちにかかわる場面が直面するかもしれません。人のいのちを救うために、自分たちができることを考えてみましょう。

① けがの手当て

◆すりきずの手当て
 ①きず口を水であらってきれいにする。
 ②消毒をする。きずがひどいときは、ガーゼなどを当てて包帯はくわいをする。
 ※包帯の代わり・・・ネクタイ、ストッキング、風呂敷、タオルなどの清潔な物

◆切りきずの手当て
 ①きず口を水であらい、ガーゼなどでおさえて、出血でくを止める。
 ②消毒をして、包帯はくわいをする。
 (血ちのついたガーゼなどは、自分で始末する。)

◆やけどの手当て
 ①すぐに水道水で10分以上冷やす。(指などの場合は氷水につけてもよい。)
 ②衣服はむきむきにならないで、服の上から冷やす。
 ③水みづをぬぐはつぎさない。

◆頭あたまを強く打ったときには・・・
 ①頭あたまを動かさないで、静かに横になっている。
 ②近くの人ひとは、先生や大人おとなに知らせる。

■海老名市防災教育共通教材 対象：小学校6年生

人のいのちを助けよう

■指導する学年	6年	■指導場面	学級活動	■指導時数	1時間
■本時のねらい	自然の生命の大切さを知り、安全で安心な生活を送るために自分たちができることを考える。				
■使用する資料	海老名市防災学習テキスト「地震しんからいのちを守る」(P.13～14) 「あなたにしか教えない大切な命」DVD (大阪ライフサポート協会) 海老名市公共施設AED設置マップ				

学 習 活 動	指導上の留意点
【導入】 1. けがの手当てについて知る。(テキストP.13) ・すりきず ・切りきず ・やけど ・腫れ腫打った	○テキストにあるけがの手当て例について学習する。保健の授業の復習。
【展開】 2. AED <small>自動体外式除細動器</small> の写実と施設設置場所のマップを見る。 ・学校の近くにあるのか。 ・実際に聞けたらどうなるのか。(アラーム音のこと)	○実際に学校にあるAEDの外観の写実を提示してもよい。事前、事後指導で学校にあるAEDの場所を確認してもよい。 ○心停止・・・心臓が突然止まってしまうこと。毎年では1日に10万人の人が心臓突然死で亡くなっている。 ○心停止ははたして誰でもどこでも起こる可能性がある。体育の授業や教室、またスポーツの最中に、大切な命が奪われる可能性があることを伝える。 ○プリント(海老名市公共施設AED設置マップ)を配布して、海老名市でのどこにAEDが設置してあるのか確認する。学区内の公共施設以外の設置場所を事前に確認しておく。 ○書及防が子どもたちの考えと、比べて多いのか、少ないのかを聞いてもよい。 ○DVDの展開が速いので授業の実際に当て、再生スピードを遅くしてもよい。
AEDは、どんなところにあるかを知る。 ・学校 ・市役所 ・海老名市運動公園 ・中央図書館 ・病院 ・地域のコミュニティセンター	○動画をもとに、いのちの大切さ、AEDの必要性、人のいのちを救うために自分ができることを考えさせる。
【まとめ】 4. 「あなたにしか教えない大切な命」DVDを見る。 【視聴時間】 5分11秒 5. 人のいのちを救うために、自分たちができることは何か話し合う。 6. 奇跡の授業でどんなことを学んだのか。授業をする前とでの自分の考えがどう変化したかまとめる。(テキストP.14)	○教師の話をしる。

【小学校4～6年生】

自他の生命の大切さを知り、安全で安心な生活を送るために自分たちができることを考え、人の命を助けるために、状況に応じた行動ができるようにする。

③ 胸骨圧迫・AEDの使い方（中学校2年生）

もし、人が倒れていたら

- ① 周囲の安全確認**
安全です
- ② 反応の確認**
反応なし
- ③ 協力者を呼ぶ**
呼吸なし
- ④ 呼吸の確認**
呼吸なし
- ⑤ 胸骨圧迫**
変化なし
- ⑥ AED装着**
- ⑦ 心電図解析**
必要あり
- ⑧ 電気ショック**
変化なし
- ⑨ 再び胸骨圧迫**

① 周囲の安全確認
倒れている場所は安全ですか。危険な場所ならば安全な場所に移動します。

② 反応の確認
肩をたたきながらできるだけ耳の近くで「わかりますか？大丈夫ですか？」などと呼びかけます。反応があれば、助ましなげの様子を見守ります。

③ 協力者を呼ぶ
大きな声で「誰か来て下さい」と助けを呼び、救急隊への連絡(119番)、AEDの用意を依頼します。

④ 呼吸の確認
胸から腹のあたりが動いているか10秒ほど見て、鼻と口との呼吸があるか確認します。呼吸があれば、様子を見守り救急隊を待ちます。

⑤ 胸骨圧迫
① 胸の中央に手を重ね、真上から指先で胸が5cm沈むまでしっかりと圧迫する。
② 1分間に100～120回の速いテンポで絶え間なく圧迫する。
③ 圧迫と圧迫の間は十分に力を抜き、胸が元の高さに戻るようにする。

人工呼吸の技術があれば、胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを実施する。

⑥ AED装着
① 音声メッセージに従って電極パッドを装着します。
② 電気ショックの必要性をAEDが判断します。
③ 必要な場合、⑤の胸骨圧迫から繰り返します。

⑦ 心電図解析
音声指示に従い、誰も傷病者に触れていないことを確認してショックボタンを押します。

⑧ 電気ショック
音声指示に従い、誰も傷病者に触れていないことを確認してショックボタンを押します。

⑨ 再び胸骨圧迫
救急隊の到着や鼻と口での呼吸や目的のある仕方が見られるまで繰り返し続けます。

■海老名市防災教育共通教材 対象：中学校2年生

胸部圧迫・AEDの使い方④

■指導する学年	2年	■指導場面	学級活動	■指導時数	1時間
■本時のねらい	心肺蘇生法に加えて自動体外式除細動器(AED)の実習を通し、救急教育活動に対する意識を高める行動できるようにする。				
■使用する資料	①練習用胸骨圧迫装置(ミニマン、アップラー) 各校設置予定、AED設置マップ ②DVD大阪ライフサポート協会映像教材 教育委員会所属				

学 習 活 動	指導上の留意点
【導入】 1. DVD大阪ライフサポート協会の映像教材を見て心臓停止突然死の現象を知る。 ※DVDの題材は心臓に「F」が描かれた人(ともにも5分)を見せる。	○映像を見せ、心臓停止突然死が身近にあることを知る。 ※DVDはどちらかにして、自分の体験が話してもよい。
2. 救急車、医師に引き継ぐまでの応急処置(胸骨圧迫・AEDの利用)が大切な事を知る。	○応急処置の仕方を知っていれば消防士や医師でなくても、多くの人が救えることを理解する。
【展開】 3. テキストP.32, 33を使って、教師が胸骨圧迫について説明する。 ※DVDを見せながらでもよい。 第2話「胸骨圧迫のしかた」(4分) 第3話「AEDの使い方」(4分) 4. ダミー一人を使い、胸骨圧迫・AEDの使い方の見本を見せる。 ※実際の現場(場合一層)に協力者を呼んで胸骨圧迫を行う。消防士や医師が到着するまで交代で続ける。	○胸骨圧迫の目的と重要性を理解する。 ・傷病者の症状や周囲の状況を確認し、他の応急手段と併用する。 ○胸骨圧迫は胸骨が5cm沈む位を押す。 ※真上から圧迫する。 ※1秒に2回押す→「トノノム」を意識するか、「もしもし亀よ」を歌いながら行うとよい。
5. ミニマン、アップラー(簡易式胸骨圧迫練習装置使用)を使って、実習を行う。 AEDを使っての練習を行う。 AEDの到着～AEDの着脱、解析の指示に従う。回復しない場合→胸骨圧迫開始、AEDはつけたまま、指示に従う。	○救急隊のグループで行い、胸骨圧迫の回数や圧迫が正確に出来ているか確認しあう。 ※3分間続けよう。 ※意図の経過後、周囲に協力者を求める必要があることを理解する。
【まとめ】 6. 落ち着いて胸骨圧迫・AEDが使用できたか、振り返る。 ※繰り返しシートを用意する。 ※消防の方が来られていたら、アドバイスをもらう。	○患者の様子を見て、回復しない場合は、胸骨圧迫・AEDは続ける事を知る。(消防士や医師が到着するまで続ける。)

【中学校1～3年生】

心肺蘇生法やAEDの実習を通し、地域の一員として人命救助活動等に対する意識を高め、行動できるようにする。